

氏名	高山 有 泰
学位の種類	医学 博士
学位授与番号	乙 第 151 号
学位授与の日付	昭和40年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	異種蛋白の消化管吸収に関する免疫血清学的研究 第1編 肝疾患における異種蛋白の消化吸収について 第2編 実験的肝障害時の異種蛋白の消化吸収について
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 村上 栄

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

経口的に摂取された異種蛋白が、そのままの形で消化管粘膜から吸収される機序は、今日でもまだ明確な説明がなされていない。

本論文では、肝疾患、特に慢性肝炎及び肝硬変症において、食餌蛋白投体が血中にしばしば出現することを指摘し、その臨床的意義を検討した。

血中食餌蛋白抗体の出現は、肝機能の代償期より障害時期により頻度が高く、じんま疹の発現や薬物に対する過敏性をともなうものに多い傾向がみられる。

一方、異種蛋白（卵白）は、経口投与を繰返したウサギの消化管粘膜からは吸収の低下傾向がみられるが、四塩化炭素により障害を惹起させることにより、異種蛋白の消化管粘膜よりの吸収低下傾向はみとめがたくなる。

その際の肝細胞の反応性の変化を、可及的生理的条件下で、免疫細胞学的に位相差顕微鏡および細胞電気泳動法により観察し、それらの変化が卵白による感作に基因することを明らかにした。

論文審査の結果の要旨

高山有泰提出の「異種蛋白の消化管吸収に関する免疫血清学的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

異種蛋白の消化管吸収がアレルギー性病変と関係の深いことが推察されているが、一方消化管の慣れの現象として説明されているように異種蛋白を経口的に投与すると、そのままの形では、吸収されないことも知られている。著者は先ず各種肝疾患について蛋白抗原の吸収を血清学的手技を用いて検討し、肝機能障害時には肝代償期に比し、その吸収が多いこと、その際アレルギー性胃腸炎を伴わないこと、流血中に異種蛋白抗体証明例にはアレルギー性症状の発現例が多い傾向にあること、異種蛋白アレルゲンによる皮内反応とは相関々係がないこと、赤血球電気泳動による検討から血中での食餌性蛋白は赤血球と結合しないこと、などを証明した。次いで家兎を用いての実験を行い、臨床で得られたデータを確認すると共に、異種蛋白の血中の証明には肝以外に腸管吸収の異常が関与し、肝障害はさらに腸管吸収に影響を与えることを証明した。

また肝細胞の反応性の変化を可及的生理的条件下で免疫細胞学的に位相顕微鏡および細胞電気泳動法により観察し、それが卵白による感作に基因することを明らかにした。以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せらるべき学力を有すると認める。